215898
3
昭和25年10月18日

岡本健三郎口供

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 332-3

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 332-3

明治十年第三四日頃中村貫一来り金子入用
ニ付五千円計心配致し呉度段頼談ニ預り候
ヨリ水道橋内三崎町三丁目住居平岡濬一
方江参り相談之上調金翌朝中村貫一方江
使ヲ以指遣候事

右之通相違無御坐候

第一大区十一小区
神田東松下町廿八番地
高知縣士族
従五位岡本健三郎㊞印

明治十一年四月十八日

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 332-3

明治十年七月初旬頃中村貫一来リ先日平岡
濕一ヨリ借リ入ノ金五千円右利子百円ニ付
一ヶ月壹円ノ割ノ利足ヲ束ネ受取候哉ニ相
覚ヘ候
平岡濕一ヨリ最前借入ノ節ハ格別証書等指
入不申哉ニ相覚申候
右金額中村貫一ヨリ受取平岡濕一ヘ返辨ノ
節自身罷越候哉又ハ使ヲ以返却候哉時日経
過之義ニ付判然記憶不仕候事
右金額返済方延引致シ候ヨリ中村貫一直ニ
平岡方ヘ罷越談判申述候哉承知仕
候事

右之通相違無御坐候

明治十一年四月十八日

高知縣士族

從五位岡本健三郎拇印

一明治十年第二月頃兼テ立志社ヘ立替金有之其返濟方遲引相成難渋仕候ヨリ一時流通ノ為メ竹内綱ヘ依頼致シ伊賀氏理ヨリ金一千円借受候事尤自宅於テ綱ヨリ金額受取候樣相覺ヘ候事

一右証文ハ自分借主ニテ伊賀氏理ヲ宛相認メ候事

一同年六月末カ七月初旬頃ヽモ候哉前條金額伊賀氏理代石河清水ヘ向ケ使ヲ以返濟方取計候事

一右金額利足シ義ハ何分記臆仕兼候ヘ共一ケ月百円ニ付壹円五十錢位ノ樣相覺ヘ候

事

一 右之外伊賀氏理ヨリ金員借受候事相覚
ヘ不申候

右之通相違無御坐候

高知縣士族

明治十一年四月廿三日　従五位岡本健三郎拇印

自分義立志社所有ノ白髪山政府於テ御買上ケ
之事ニ関係周旋セシヲ以テ林有造等ニ屢々面
會致セシ所昨明治十年二月上旬頃右有造帰縣
ノ際面會ノ節自分ヘ對シ此度西南ノ事変如何
立至ルヘク哉勢ヒ計ルヘカラス必ス駸々ト四
國中國辺ヘ侵入スヘシ吾輩其心得ナカルヘカ
ラス左モナク共此際人臣ノ應分丈ケハ盡サヽ
ルヲ得ス菟ニ角必要ナルハ銃器ナク幸イ當時
横濱ニ有合セ有之哉ニ傳承セリ当節柄外々望
人モアルヘケレハ不取敢右ヲ指押ヘ置クユ風
ヲ頼ミ入ルヽナリ孰レ自身後日出京所分致スヘク
尤右ニ付金員ホヲ要スル事ナレハ貳三千円位

ハ取替ヘ置呉度旨依頼ヲ受ケ囚人ニ相別レ日
ナラス竹内縣ニ面會種々談話ノ末偶々銃器ノ
談ニ渉リ日人中ケルハ後藤氏ノ常ニ使役スル
外人ダヽローザナル者ニ謀レハ整フヘシト仍テ
此談判ヲ縣ニ依頼セリ其后縣来リ銃器ノ事ヲ
ローザニ謀リシ処当時横濱ニ有リ合セシアルヘ
ク併シ買受引取ルニハ規則モ之アリ容易ニ整ヒガ
タクハ只指押ヘ置ニハ格別手細之レナク尤多ク
金員之レナクテハ整ヒカタク金サヘアレハ整フベ
シト申出タル由ニ承知セリ爰ニ於テ金策ノ義ヲ
縣ニ依頼シ伊賀氏理ヨリ金三千円カ四千円カ
ヲ借リ受ケ其証文ハ自分借主ニテ則財産引当
ナリ此金額整ヒシヨリ直ヽローザニ談判ニ若シ

不用ニ属スルトキハ解約之義ハ整フヘキ哉
ノ旨ヲ談セシ処カヽル之損金サヘスレハ子細ナ
キ旨申出ルニ付右金員ヲ渡シ終ニ横濱某
商ニ於テ銃器ハ百挺ヲ囘
置ク事ヲ委托セリ其后ロ
致シ呉度旨申出ルヨリ金千円ト両
度ヽ分割シテ之ヲローザニ渡セリ其后三月下
旬ノ頃中村貫一白髪山ノ一条ニテ上京セシヽ
付右ヲ一應申談セリ而シテ四月ニ至リ林有
造上京セシヲ以テ右ノ子細
ヲ申述ヽ悉皆事件ヲ囚人ニ引渡シ両后関係
致サヾルナリ四月中中村
用ニ付山代價御下ケ渡シ金五千円計リ心配

致シ呉度旨相談アリシニ付則平岡熈一名
義ニテ取整ヘ使ヲ以貫一宅ヘ持セ遣ハシ其節
同人ヨリ借用証書ヲ受取リ置ケリ全体自分義
一昨年ノ末ヨリ勸農局製茶事業ヲ引受ケ
只管右ニ従事シ居リ且其際老母ヲ失ヒ續
テ三四月頃幼少ノ倅病気ニテ右看護等内事
頗ル多端ニシテ他ニ関係ノ余暇ナク故ヲ以当
時殆ント友人ノ交際モ絶シ居タルニ付舊國
ノ形勢其他トモ渾テ存セサルナリ四月下旬ノ
頃カ自分義製茶事業ノ為メ上総國東金町ヘ
出張セリ其節右ノ立替金其侭ニテ迷惑致スラ
以度々中村貫一ヘ催促ニ及ヒタリ其往復文書
中ニ縣下於テ護郷兵編制シ義ヲ申立タルニ付

其ノ為メ林有造俄ニ帰縣セシヲ承知セリ續テ
追々不穏ノ形勢頻々風聞アルヲ以テ以テノ故カ
下ケ金ニナラス甚困却シ既貫一ヨリ申越シタリ
六月中旬頃自分帰京右下ケ金シ一条ニ付貫一
ヨリ頻リニ依頼ヲ受ケ且自分ニモ多分取替
金アリ甚迷惑ナルヲ以屢々下ケ金シ義ヲ其
筋ヘ申運ヒシ所漸ク六月下旬カ山代價シ内新
公債証書ニテ三萬円ハカリ御下ケ渡シニ相成右シ内
九千五百円カ自分委托ヲ受ケテ賣却セリ此金
額ヲ以是迄立替金其他自分関渉ノ金員悉皆償
却相濟シシナリ其后八月ニ至リ林有造上京セ
シニ付高知形勢其節ノ風評等ヲ以質問ニ及ヒシ
取種々論議モ之レアリシナシ共全ク世上風評

通リニモ無之最早西南モ鎮静ノ域ニ立至リシ
ナレハ決シテ気遣ナシ此度ハ山ノ事其他ノ事
共始末ノ為メ上京セシト申セシナリ自分上総ヨ
リ帰京又々幼カノ長男病勢甚タ危篤ニテ昼夜
看護致セシヲ以全ク世事ニハ一切関係致サヾル
ナリ

右ニ陳述セシ当節ノ事情及覆追想シ其記
憶ノ儘ヲ挙ケタルニテ最早数月ヲ経過セシヲ以
テ時日甚他判然イタシカタク不而已應答
ノ際飾言抑揚等ノ差異之ナキ無トモ申上ケ難ク
且前条内事多端ノ際自然忘失ノケ條モ之レ
アルヘキカ乍去甚要領ノ主旨ニ於テ決シテ相
違之ナキナリ然ルニ林有造帰縣中其外大阪ホ

於テノ實蹟上反心ノ見留メ免カレカタク殊被
仰聞實ニ驚歎ニ堪ヘサル次第ナリ然ルニ上ハ自分於
テモ銃器ニ関渉セシ上ハ同謀同議ナルカ或ハ
陰然其反意ヲ賛成セシカト御疑團ハ之レアルヘ
ケレド果シテ然ランニハ当節何ヲ區々ノ事業
ニ拮据シ而シテ然ランニハ当時ノ出張スルヲ得ン
猶又之レヲ賛成スルノ心アラハ当時多數ノ
金員取扱ヒノ夾右銃器ヲ引取ル丈ケノ金員力
ニ能ヲ可ケレハ何ヲ御下ケ金ノ下ルヲ待ケ躊
躇スルノ理アラン唯最前有造ヨリノ委托ヲ受
ケシ意ヲ推測スルニ賊燄熾ンニシテ郷土ニ侵入
スレハ素ヨリ政府当然ノ御所分アルヘキ筈然
シ共又人民財産保護ノ備ヘモナカルヘカラストノ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 332-3

意味ニ之レアリヨリ許諾ノ上取扱ヒシテ相違ナシ勿論連累ノ者御審問當時ノ事情明了ナルヘケレハ此上包藏弥縫致スヘキ義ハ萬々之レナリ唯自分ニ於テ毫末反心コレナキ義ハ則昨年中實地ニ飛跡ニ照ニ已ニ瞭然タル義ト存スレト前後篤ト御諒察御氷解只管布望ニ堪ヘサルナリ

右之通相違無御坐候

高知縣士族

明治十一年五月七日　從五位岡本健三郎　㊞

岡本健三郎口供

第壹号

明治十一年四月十七日申立

神田東松下町三十八番地

寄留

高知縣士族

岡本健三郎

第一条　自分家禄ハ先年親戚ヘ譲与シ當今ハ毛禄ナリ

第二条　自分ハ林有造中村貫一トハ至テ懇意ニ文際スルナリ

第三条　自分ハ明治九年暮ヨリ勧農察ノ委任ヲ受ケ製茶ニ従事シ居タリ明治十年西南事変ノ起リシ時有造ハ上京中ナリシカ右事変ヲ聞テ急ニ帰縣シタレハ自分ハ其様ノ事モナ

ク依然製茶ニ従事セリ尤有造カ帰県スル時
高知人カ方向ヲ誤ラサル様自分有造ニ談シ
置ケリ其後四月下旬ヨリ五月上旬カノ比ヨリ
自分ハ上総ニ至リ製茶ヲ為シ居タルカ五月
中中村ヨリ手紙ヲ以テ高知ニ於テ護郷兵ノ
企アルヲ申越シタルニヨリ自分ハ容易ナ
ラサルヲ存シ尚委シク申越スヘキ旨中村
ニ回答ニ及ヘリ右護郷兵ノ企アリシ時モ有
造ハ上京中ナリシカ其事ヲ聞テ大ニ驚キ急
ニ帰県セシ由六月中旬自分帰京ノ上承知セ
リ其後有造又東京ニ来リ自分向テ云高知ハ
壮士輩ノ議論紛々トシテ或ハ九州ニ押出ス
ヘシト云フ者アリ或ハ直ニ京師ニ押寄スヘ
シト云フ者モアリテ中々尋常ノ説諭位ニテ
鎮静スヘキ景況ニ非リシ故拙者壮士輩ニ向
ヒ吾輩カ足ヲ挙ル迄ハ決シテ動揺スルヿ勿
レト云テ一時之レヲ取鎮メタリ然ル処銃器
弾薬ハ用意アリヤト壮士輩カ尋ネシニ依リ
銃器弾薬ハ東京ニ於テ既ニ用意シ置ケリト
拙者答置キシニヨリ萬一壮士輩ヨリ銃器弾
薬ノヿヲ尋ヌル者アレハ足下ハ既ニ用意シ
置キタリト答呉ヨト尤決シテ銃器弾薬ノ用
意ヲ為シタルニハアラス只有造カ壮士輩ヲ鎮
静スル為メノ手段ナリシナリ

第三条　有造カ壮士輩ニ向テ銃器弾薬ノ用意
ハ既ニ調ヒタリト云テ之ヲ鎮静シタリトハ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 332-3

不都合千万・申立ナリ右ハ壮士輩ノ暴動ヲ鎮メタルニハアラス却テ之ヲ助ケタル筋ナリトノ御詰問ハ御尤ナレヒ當時壮士輩ハ容易ナラサル景況ニテ迚モ尋常ノ説諭位ニテ鎮静スルヿハ出来サリシ由承知セリ既ニ自分ヒ岡健吉カ建白セシヿヲ聞テ容易ナラサルヿト思考シ有造ニ向テ云建白ハ人臣ノ分々於テ為スヘカラサルヿニハ非レヒ今此御國難ノ際ニ當リ建白ヲナスハ全ク政府ノ御多端ヲ見込ミタル筋ニテ實ニ以テノ外ノヿナリ拙者ハ不同意千萬ナリト元来自分ハ立志社其外何レノ社員ニテモ非レヒ右様忠告セシ処有造云一應尤ノ論ナレヒ壮士輩ノ氣燄ハ決シテ尋常ノ事ニテ鎮静スヘキ模様ニ非リシユヘ吾輩モ固ヨリ建白ハ不同意ナリシカヒ寧ロ壮士輩ノ気力ヲ建白ノ方ニ移スヒハ干戈ヲ動スノ患ナカラント思量シ余義ナク建白ニ着手シ漸ク暴動ノ気燄ヲ折ケリト當時高知ノ事情ハ右様ノヿナリシユヘ銃器弾薬云々之事モ全ク一時ノ手段ヲ以テ有造ヨリ壮士輩ニ語リタルト存ルナリ

第四条　銃器弾薬ノ用意ハ既ニ調ヒタリト云テ壮士輩ヲ鎮静セリトハ本院ニ於テ審問ノ節有造カ一時ノ遁辞ニテ其遁辞ハ夙ク破レタルナリ當時有造ヨリ自分ニ決シテ右様ノ談示ヲ為シタル筈ナシト御詰問アレヒ自分有

造ニ談示ヲ受ケタルハ右之通リナリシニ相
違ナシ依テ其事実ハ如何アリシヤ自分ハ更ニ
心得サルナリ全体自分ハ明治九年ノ暮ヨリ
専ラ製茶ニ従事シ頗ル繁忙ナリシ故高知人
ニハ有造ニ折々面会セシノミニテ其余ニ逢
ヒシ者ナシ夫故高知ノ事情ハ自分一向承知
セサリシナリ

第五条　自分折々有造ニ面会セシハ立志社取
有ノ山ヲ政府ニ御買上ノ一ト付自分モ関係
致居リシユヘナリ元来自分ハ明治七年ニ辞
職シテ帰郷セシ時板垣モ帰郷シテ元ト兵隊
ノ者抔カ士地ニアリツク様尽力セシ際ナリ
シ故自分モ其事ニ関係シタルカ何分資本ナ
クテハ其方法調ハサル事故高知ニテ有名ノ
官山御拂下ヲ願ヒ而シテ之ヲ賣却スル時ハ
其利益ヲ以テ右方法ヲ調フヘシト議決シ自
分帰京後要路ノ人抔ニ周旋シタル処右官山
終ニ御拂下ケアリタリ其後又右ノ山ヲ政
府ニ御買上ノ談判始リシ時ヨリ自分ハ官ト
立志社トノ間ニ立テ周旋シ居タルカ弥御買
上ケト決シ地券モ既ニ御取上ケアリテ追附
代金御下渡アルヘキ場合ニ臨ミシ処高知ノ
穏ナラサル風聞アリシ故カ御下金ナカリシナ
リ尤右山ノ一ニ有テハ自分中村貫一ニモ折
々面会シタルナリ

第六条　明治十年四月下旬カ五月初旬カノ比

ヨリ自分ハ上総ノ方々至リシユヘ自分不在
中ハ小野義真カ山ノ代金御下渡ノヿヲ周
旋シ居タリ已前ヨリ自分ト小野トニテ山ノ一条ニ関係セリ
六月中旬自分帰京セシ処其頃迄ハ未タ御下
金ナカリシカ六月二十九日カ三十日カノ頃
代金ノ内新公債証書ニテ三万円通貨一萬四五千円ニ当レリ
御下渡アリタリ其御下金ノ會計ハ一切中村
貫一カ擔当セリ尤右新公債証書九千円程
ハ十年七月初旬自分ノ手ニテ賣却セリ
第七条　前条ノ内渡金ノヿニ付テハ自分平岡
熈一静岡縣士族ニテ水道橋内三崎町二丁目カ三丁目カニ住居セリ先年内務省ニテ六等官ヲ奉職シタルカ近来ハ非役ナリニモ談シ平岡モ周旋シ呉
レタリ尤当時平岡ハ自分ト共ニ勧農寮ノ製
茶ニ従事シ居タルナリ自分製茶ニ従事セシ時母病死シ忌引中手
支一タルニ付自分ヨリ平岡ニ依頼シテ製茶ニ従事シ貰ヒタルナリ

右之通相違無御坐候

高知縣士族

明治十一年四月廿六日　従五位　岡本健三郎　押印

第貳号

明治十一年四月十八日申立

高知縣士族

岡本健三郎

第八條　自分ハ明治十年四月頃横濱ノ富貴樓ヘ一至リタルコトアリヤト御尋アレ氏自分ハ十年中横濱ヘ至リシコトナシ其故ハ十年四月頃ハ自分毋ノ病気ニ付木挽町ノ製茶場ヘモ出兼ル已ニ平岡濬一ヘ依頼シテ製茶場事業ノ代理ヲモ致サセタルハ位ニ付中々外出抔ハ出来サル場合ナリシナリ

第九條　只今十年中富貴樓ヘ至リタルコトハ十キ旨申立レ氏十年四月五日富貴樓ニ於テ宴會セシ費用金弐拾五円ヲ自分ヨリ拂入レシ事

アルハ如何トノ御尋間〻依リ不図存付甚恐入ルナリ右ハ十年四月頃小野義真カ大阪ヘ至ルヽ付送別ノ為メ富貴樓ヘ會シタルヿアリタリ全體小野ニハ山ノヿヽ付彼此世話ヽモナリ居ルトテ中村貫一ヨリ誘引アリシヽ付即チ送別ノ為メ至リタルナリ尤其時ノ入費ハ立志社ヨリ出金スル旨中村申聞シヽ付自分一時立替タリ其費用ハ貳拾五円余ト存スルナリ

第十條　右富貴樓ヘ集會シタル人數ハ電信局大書記官芳川顕正鐵道局長井上勝後藤象次郎岩崎弥之助川田小一郎并自分〻テ即チ小野義真ト別杯ヲ酌シタルナリ

第十一條　中村貫一ヘハ屡金円ノ立替ヲナシタルヿアリ右ハ中村カ明治九年頃高知ヘ至リタルヿアリシカ自分中村トハ兼テ懇意ナルヽ付右留守中ノ世話ヲ頼マレシニ付其留守中ニ於テ自然入用金モアレハ自分立替遣シタルヿモアリ又時々貸金等モナシタルナリ

第十二條　明治十年四月中中村貫一ヘ五十円ノ貸金アリヤト仰聞アレヒ右ハ立替金ト存スルナリ

第十三條　林有造ヘモ立替金アルヤト仰聞ノ趣拝承セリ右ハ明治九年十二月頃手元差支タル由ニテ金融ノ依頼アリシニ付貳百五十円遣シタルヿアリ又十年四月中三百円ノ立

替金アルヤト仰聞アレ共是ハ能覚エス手帳
ヲ取調サヘスレハ分明ナルヘシ

第十四條　唯今考フレハ林有造ヘ三百円ノ立
替金モ何ニカアリシ様存スルナリ尤是迄有
造ヘハ始終立替金モアルニ付明細ニハ記憶
セス又板垣退助ニモ立替金アルナリ但右ハ
十年七月ニ至レハ自髪山御買上代金カ御下
渡アルニ付夫迄ノ約束ニテ立替置キシ分モ
アルナリ

第十五條　平岡濶一ヨリ自分カ借入レタル金
ハ五千円ナリ右ハ明治十年三四月頃中村貫
一来リ俄ニ入用ノ廉アリシニ付五千円心配
致シ呉ヨト依頼アリシ処自分手許ニ無之ニ付平
岡ヘ頼談ニ及ヒタルナリ其前ニモ中村カ
箱嵜ノ旧知事山内家ヨリ借用金アリ又立志
社ヨリモ借用シタルコトアリシカ返済期限ニ
至リテ督促ヲ受ケ差支タリトテ其時モ中村
ヨリ立替金ヲ依頼サレシニ付貸遣シタルコト
アリタリ

第十六條　右五千円取引ノ場合ニ於テ別段
自分ヘノ証書ハ受取ラス全ク請取書ノミヲ取リタルナリ尤中村ヨリ平岡ヘ宛
タル証書ハ取リタルニ付平岡ヘ問ス積リナリシカ其際白髪山代金カ御下渡アル
ヘキ都合ニテ中村ヨリ返金ニモナルヘクト存シタリシニ付遂ニ其証書ハ平岡ヘハ問

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 332-3

ハサヽリシ様存スルナリ

第十七條　右五千円ヲ中村ヨリ返濟シタルハ十年七月初旬頃ト存スルナリ　其手續ハ中村カ十年六月廿九日カ三十日カ自分方ヘ来リサテ疾ク大藏省ヨリ御下渡ニナルヘキ白髪山代金カ下ラスシテ公債証書三萬円丈ケ御下渡アリタルニ付其証書ニテ融通シ平岡ヘ五千円返却ニナルヘクトテ其後中村ヨリ返却アリシニ付平岡ヘ返濟ニ及ヒタリ尤其金ハ中村ヨリ自分方ヘ受取リ夫ヨリ平岡ヘ持セ遣シタリシヤ又中村カ自身平岡方ヘ返却シタリシヤ最早時日モ經過セシニ付巨細ニハ覚ヘサルナリ

第十八條　最初中村ヨリ五千円ノ証書ヲ差越シタル節自分平岡ヘ問合セタル取別段證書ニハ及ハサル旨申越シタリ尤利子ハ月壹分即チ百円ニ付壹圓ノ割合ニテ宜シキ旨申越タリ

第十九條　自分ハ四月下旬東金ノ方ヘ至リタルニ付中村ヘハ五千円返却ノ遅延セサル様度々申遣シ已ニ東金ヘ至リシ後モ尚又文通ニ及ヒタル位ナリ尤其後中村カ自身平岡方ニ至リ段々遅延シタル挨拶ヲ申述タル由中村申居タルナリ

第二十條　右五千円ノ金額ハ平岡カ自身ノ取持金ニ非ス矢張製茶場ノ金ヲ振替タルヿナ

リ

右之通相違無御座候

高知縣士族

明治十一年四月廿六日

後五位 岡本健三郎 拇印

第三号

明治十一年四月廿三日申立

高知縣士族

岡本健三郎

第二十一條　明治九年ノ暮ヨリ十年ノ春ヘ掛ケ自分ヨリ立志社ニ立替金アリシカ右立替金ハ立志社取有ノ白髪山御買上代金大藏省ヨリ御下付次第返辨スル契約ナリシ取急御下金ナク立志社ヨリノ返辨大ニ延引ニ及ヒ自分ノ金融手支ヘタルニ付明治十年二月比竹内縣ニ依頼シ竹内縣ヨリ立志社ヘ交渉ノ上自分ヘ渡ス筈ニテ竹内縣ヨリ自分ヘ渡シタルノミニテ立志社ヨリハ一銭モ受取リ不申候ニ付其後立志社ヨリ再三返辨方ヲ談シ候ヘトモ一向ニ埒明カス依テ竹内縣ヨリ自分ヘ渡シタル金ハ竹内縣ノ旧債ナリシヲ以テ竹内縣ヨリ伊賀氏理ナル人ヲ以テ自分ヘ渡シ候ニ付伊賀氏ヨリ自分ヘ渡シタルモノニ相違ナキヤヲ知ラサルニ付竹内縣ヨリ伊賀氏理ナル人ヲ以テ自分ヘ渡シタル金ハ竹内縣ノ旧債ナリシヲ以テ竹内縣ヨリ自分ヘ渡シタルモノニ相違ナキヤヲ知ラサルニ付竹内縣ヨリ伊賀氏理ナル人ヲ以テ自分ヘ渡シタル金千円ヲ借用セリ自分ノ財産ヲ抵当ニハ不致候ヘトモ一向ニ埒明カス依テ竹内縣ヨリ自分ヘ渡シタル金ハ竹内縣ノ旧債ナリシヲ以テ竹内縣ヨリ伊賀氏理ナル人ヲ以テ自分ヘ渡シ候ニ付伊賀氏

タル様記臆セリ尤借用証書ハ伊賀氏理宛ニテ自分ヨリ差入レタリ其借用金ハ自分茶ノ商業ニ費用セリ自分ハ月々餘程茶ヲ輸出スルユヘ多分ノ金円入用ナルナリ

第二十二條　前条ノ借用金ハ明治十年六月下旬カ七月初旬カノ比伊賀ニ返金セリ右返金ハ自分家来ニ申附ケ伊賀ノ旧臣石河清水宅ニ持参致サセタル様覚ユルナリ（自分家来ハ両三人アルユヘ返金ヲ持参致サセタルハ誰ナリシヤ記臆セス）但右返金ハ立志社ヨリ自分ニ返辨セシ金ナリシヤ又ハ自分手許ニ有合ハセタル金ナリシヤ覚ヘサルナリ

第二十三條　立志社ヨリノ返金ハ自分中村貫一ヨリ受取リタリ右ハ去ル十七日申上ケタル白髪山ノ代金内渡トシテ公債証書御下付アリシ時自分ノ手ニテ賣拂ヒタル公債證書代金ノ内ニテ右返金ヲ受取リタルナリ

第二十四条　伊賀ヨリ金四千円借用之義ヲ自分石河清水ニ頼談セシ処伊賀ニハ其金高有合ハセサリシニヨリ伊賀取持ノ公債証書ヲ抵当トシテ金三千円ヲ吉井正澄ヨリ借受ケ取持金千円ヲ合セテ四千円ヲ伊賀ヨリ自分ニ貸附ケ其金ハ石河カ自宅ニ持参シテ自分ニ渡シタリト石河ヨリ申立テタル旨仰聞ニ依テ考フレハ自分ハ借用金ヲ石河ヨリ受取リタルカモ知ラサレ𪜈其金高ハ千円ナリシト覚ユルナリ全體自分ハ商業上多分ノ金ヲ

取引スルニ付百円又ハ貳百円ハ覚ヘ違ヒモアルヘケレ𪜈四千円ノ借用金ヲ千円ト覚ヘ違ユル様ナル筈ハナキナリ尤右金円取引ノ了ハ自分帳簿ニ記載アルニ付御取寄御一覧被下度ナリ

第二十五条　去ル十八日御審問ノ節自分平岡憑一ヨリ金五千円ヲ借受ケタル旨申立テタレ𪜈平岡ヲ御調アリシニ平岡ニ於テハ曾テ自分平岡ニ向テ拙者金五千円ヲ中村貫一ニ貸附ケタルカ右ハ拙者名前ニテハ不都合ニ付拙者周旋ノ上足下ヨリ貸附ケタル姿ニ取計ヒ置キタルユヘ其通承知致呉ヨト云ヒシ了アリシノミニテ決シテ金ヲ用立テタル了ナシト申立ル上ハ右平岡ヨリ借用金ノ了ハ全ク自分ノ偽言ニ相違ナキナリ因テハ伊賀ヨリ借用金ノ申立モ偽ニ相違ナキナリ此金ニ付テハ色々事情アルヿナラント御詰問ノ趣拝承セリ右平岡ヨリ借用金ノ了ハ去ル十八日御審問ノ節引取掛ケ申上ケタル通実ハ製茶ニ使用セル金ナリシカ𪜈自分名前ニテ中村貸付ケテハ不都合ユヘ平岡ニ依頼シテ平岡ヲ貸主トナシタルナリ先日其辺ヲモ打明ケテ申上ケサリシハ全ク自分ノ不都合ナリ尤自分御拘留前妻病死シ現今自宅ニハ只両人ノ小児ノミ留守致居ルヿナルカ自分御拘留ノ節長子ハ病気ナリシナリ右様ノ次第ニ

テ自分ハ近来精神顛倒致居ルニ付是迄御審問ノ節図ラス不都合ノ義ヲ申上ケ誠ニ恐入ルナリ因テ只今御訊問アリシ伊賀ヨリ借用金ノ事ハ一應熟考之上申上度ニヨリ何卒明朝迄御猶豫ヲ願度ナリ

右之通相違無御坐候

高知縣士族

明治十一年四月廿六日　従五位　岡本健三郎拇印

第四号

明治十一年四月二十四日申立

高知縣士族

岡本健三郎

第廿六條　先日以来只今迄自分伊賀氏理ヨリ金圓ヲ借用セシ事件ニ付屢御訊問アリシカ右事件ヲ有体ニ申上ルトキハ朋友中迷惑スル者アルヘキニ付之ヲ庇蔭スル為メ實ハ取繕フテ不都合ノ事ノミ申上ケタレトモ如何ニモ相濟マサルヿト悔悟シタルニヨリ今日ハ改テ明白ニ申上クヘシ是迄厚キ御説諭ヲモ顧ミス不實ノ申立ヲナシタルハ實ニ恐縮ノ至ナリ

第廿七條　明治十年一月下旬カ二月初旬カノ

比西南ノ事変ヲ聞テ林有造カ東京ヨリ帰國
スル時自分有造ニ向テ高知人カ方向ヲ誤ラ
サル様談シタル処（此義ハ先日申上タル通リ相違ナシ）有造云
西南ノ模様ヲ察スルニ必ス駸々乎トシテ中
國四國辺ニ進入スヘシ就テハ吾輩其心得ナ
カルヘカラスヨシ右様進入スルヲナクヒ人
臣相應ノ分ハ尽サヽルヘカラス其節第一必
用ナルハ銃器ナルカ幸此頃横濱ニ銃器ノ賣
物アル由竹内綱ヨリ承知セシヲアリ当今銃
器ハ諸方ヨリ望人アルヘキニヨリ足下莵ニ
角右銃器ヲ押ヘ他方ニ賣拂ハサル様致シ置
キ呉度然ル上ハ拙者上京シテ其結局ヲ附ク
ヘシ今右銃器ヲ押ユルニ付テ二三千円ノ入
用ナレハ足下之ヲ立替ヘ呉ヨト自分云委細
承諾セリト夫ヨリ有造ハ帰縣シタルカ其後
自分竹内ニ面會シ銃器ノ談話ニ及ヒシ処竹
内云此事ハ「ローザ」（後藤カ常ニ使用スル英人ナリ）ニ謀リテ
周旋ナサシムヘシト自分云然ラハ足下ヨリ
「ローザ」ニ謀リ呉レヨト夫ヨリ竹内ハ「ローザ」
ニ謀リシ処「ローザ」云銃器ヲ買ヒ入ルヽニハ
手順ヲ経ルヽ非レハ出来カルヲナレ共銃器
ヲ押ヘ置クニハ子細ナク調フヘシ併多少金
ヲ出サヽレハ其事ハ調ヒ難シト竹内云若シ
銃器カ不用ニ属シタル時ハ足下其始末ヲ為
シ呉ルヽヤト「ローザ」云ヒシ
始末ハ附クヘシト竹内云然ラハ足下銃器ヲ

押ヘ置キ呉ヨト引合ヒニ由承知セリ是ニ於テ右「ローザ」ニ渡スヘキ金四入用ニ付自分ヨリ其金ハ如何スレハヨキヤト借入ノ義ヲ竹内ニ謀リシ処竹内云リシ依テ自分借主ニテ竹内ヨリ伊賀ニ借ラントレハ伊賀ニ借ラント依頼シ其後竹内カ右金ヲ自宅ニ持参シ自分「ローザ」ニ渡シ而シテ萬一銃器カ不用ニ属スルトモアル時ハ其始末ヲ附ケ呉レヨト「ローザ」ニ約シタリ右ハ明治十年二月初旬ノ事ニテ未タ銃器買入ノ義ニ付厳重ノ公布ハナカリシ時分ナリシナリ自分カ伊賀ヨリ借用セシ金ハ實ハ右様ノ次第ナリシナリ其借用セシ金高ハ三千四ノ様覚エ居レドモ石河清水カ四千四貸附ケタリト申上ケタル上ハ定テ其通ナリシナラン其後日ヲ経テ「ローザ」ヨリ今少シ金ヲ渡シ呉レヨト談示アリシ時自分ヨリ尚又千四ト五百四トヲ両度ニ渡シタルナリ右銃器一条ニ付金四ノ出入ハ自分帳簿ニ記載シ置キタレドモ土佐ノ事モ如斯ナリヌル故自然不都合ヲ生セシコトヲ恐レ右記載ノ部分ヲ切断セリ

第廿八條　其後中村貫一大坂ヨリ東京ニ上リシニヨリ前条ノ銃器一条ヲ自分ヨリ中村ニモ話シ置キタルカ十年四月中有造上京セシニ付自分云豫テ足下ヨリ談示アリシ銃器ハ斯ク々々ノ手続ヲ以テ押ヘ置ケリ此上ヤ順ヲ経

テ銃器ヲ引取ントスルヒ近来銃器買入ノ了
ニ付嚴重ノ公布アレハ之ヲ引取ルヿハ出来
サルナリ足下ハ如何様処分スルヤト有造云
銃器ノ了ハ拙者擔当シテ引合フヘシト其比
ハ自分小児大病ナリシ故右有造上京後ハ自
分一向銃器ノ事ニ関係セサリシカ其後有造
ハ右銃器買入ノ事ヲ解約セシ由追テ承知セ
リ右ノ通ナル故銃器一条ニ付自分カ関係ヲ
離レタルヨリ以後ノ事ハ有造ヲ御取調アレ
ハ其事柄明白ナルヘシ

第廿九條　昨年西南事変ノ起リシ比ハ自分ハ製
茶ノ了ニ従事シ居再後田舎ニ参居其後帰京
セシ處小児大病ナリシニヨリ高知ノ了ハ格別
聞モセサリシカ自分曽テ白髪山御買上ヲ周旋
セシ縁由アリシヲ以テ有造ヨリ銃器一条ノ
依頼ヲ受テ何心ナク受合ヒタルノミニテ
自分ニ於テハ毫モ反心アリシニハアラサルナ
リ

第三十條　右ノ次第ヲ是迄隠慝セシハ竹内并
有造等ヲ庇蔭セシカ為ノ一念ナリシナリ

右之通相違無御坐候

高知縣士族
従五位岡本健三郎押印

明治十一年四月廿六日

第五号

明治十一年五月七日申立

高知縣士族　岡本健三郎

第三十一條　自分カ先刻差出シタル書面ヽ於テハ事實相違ナキ心得ナリ左レ共明治十年三四月頃ハ自分老母ヲ失ヒ引續テ傷病気等ニテ内事ノ取込有タル際ニ付或ハ不記憶ノ箇條アルヤハ計リ難ケレハ其銃器ヲ取押シ實際ノ手続且自分カ反心ナキコトノ形跡ヽ至テハ聊モ相違ナキナリ

第三十二條　右書面ニ於テ銃器取押ノ事并ニ自分カ反心ナキ事ニ至テハ聊相違ナキ旨申立シ上ハ一体十年二月中旬林有造カ銃器取押ノ事ヲ

自分ヘ嘱託シタル頃ニ在テハ薩賊俄ニ暴動
ノ聞アリテ政府モ非常ノ御憂慮アリシ際
ナリ仍テハ自分ニ於テ果シテ禍心ヲ包蔵
セスシテ真ニ政府ノ為メニ尽力スルヤ否
ハ銃器買入レノ事ハ公然政府ニ申立然ル後
之レカ取置ヲナセハ幾分カ政府ニ対シ人民
ノ分ヲ尽シタルヤニテ密ニ銃器ノ謀ルヘキヤニ非
スト雖然ルヲ其義ナリシテ密ニ銃器ノ取扱
ヲナスハ是レ別ニ目的アルノ取為ニテ
即チ禍心ヲ包蔵セシヤヲ証スヘキノ第一ナ
リ又自分ニ於テ果シテ禍心ヲ包蔵セシヤヲ
キ事ナレハ林有造カ法則ヲ犯シテ監倉中ヨ
リ贈リタル書面ヲ中村貫一ヨリ一見セシ節
之レヲ承諾シテ銃器密買ノ事實ヲ隠匿シ有
造等ヲ庇蔭シ居タルハ即チ有造等カ同
謀者ニシテ不軌ヲ謀リシヲ証スヘキノ第二
ナリ又銃器買入レノヲカ真ニ政府ノ為メニス
ルノ旨意ニシテ公然取置ニ出テシヤ否
レハ帳簿中銃器買入ノ為メ取替金ヲナシタ
ル記録ノ部分ニ限リ手入ヲナシテ之ヲ消滅
セシムルノ謂ハレアランヤ然ルヲ之レニ手
入ヲナシ其部分丈ヲ裁棄シタルハ即チ不軌
ヲ謀リシ証跡ヲ掩フノ取為ニシテ即チ不軌
ヲ謀リシヲ証スハキノ第三ナリ又四月十
七日初審之節銃器弾薬云々之ヲ訊問ニ及
ヒタル処右ハ實際用意シタルニ非ス全ク林

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 332-3

有造カ壮士輩ヲ鎮静スル為メ一時ノ權謀ニ
ナシタルヿニテ事實銃器買入ニ着手セシヿ
ハ無リシト供述シタリ右ハ政府ノ為ニナシ
タルヿナレハ何故ニ初審ニハ包藏シ後日詰
問ニ對シ辨解シ得サルノ時ニ至リ銃器買附
ノ事実ヲ供陳セシヤ畢竟有造カ監倉中ヨリ
内通ノ昏面ヲ許諾シ陰ニ牒シ合セタル取為
ニシテ即チ不軌ヲ謀リシヿヲ証スヘキノ第四
ナリ以上四ヶ條ヲ以テ見レハ自分カ不軌ヲ
謀リシヿノ証跡ハ明瞭ナル旨仰聞アルニ因
テ考フレハ其御詰問ノ箇條ハ一々御尤ノヿ
ニテ何分其辨解ハ出来サルナリ左レ共自分
ニ於テハ決テ反心アツテ銃器ノ取扱ヲナシ

タルヿニ非ス又有造カ反心アリシヿモ其節
更ニ心得サリシニ付其段ハ御諒察ヲ願度ナ
リ尤唯今段々御詰問モ蒙リシニ付仍ホ退
テ勘考スヘキナリ

第六号

明治十一年五月八日申立

高知縣士族

岡本健三郎

第三十三條　自分金五千円ヲ平岡熙一名前ニテ中村貫一ニ貸渡シタルハ其比大阪ノ金沢カ高知縣掛屋ノ営業ヲ為スヲヲ政府ヨリ御差留アリシカ高知縣ノ掛屋ハ高知ト大坂ト在リシヲ右掛屋ハ金沢ノ名前ニテ實ハ立志社ノ営業ナリシニヨリ是迄掛屋ニ預リ置キタル官金ハ悉皆立志社ヨリ上納セネハナラヌヲナリシユヘ自分ノ貸金ハ多分右上納金ニ入用ナリシヲト思量シ昨日御審問ノ節其通申上ケタレトモ右時日ヲ相違シ居尚熟考スルニ右貸金ハ多

分銃器一条ニ付「ローザ」ヨリ渡ス為メ入用ノ旨ヲ以中村ノ相談アリシニヤニ存スルナリ

第三十四条　右五千円貸渡ノ依頼ヲ受ケシ時ハ白髪山代金無程御下渡ノ御模様ナリシユヘ製茶ニ使用スヘキ金円ヲ以テ不取敢用立テ置キ其後自分ハ上総ノ柬金ニ行キシカ追々多分ノ金円入用ニ付白髪山代價御下金ノ事ヲ中村ニ掛合ヒシ処御迎来高知ニ於テハ護衛兵編制ヲ企テ續テ政府ニ建白ヲ為セシ様ナル次第ニ付政府ニ於テハ大ニ御嫌疑アリテ中々御下金アルヘキ御模様ニ非スト中村ヨリ申越シタルニヨリ自分以為ク暴表ニ林有造ノ依頼ヲ受ケ軽卒ニ銃器ノ周旋ヲ為シタルカ今高知ノ景況右様ノ次第ニ付テハ萬一暴動致スヘキ哉モ難計其節銃器一条發露スル時ハ自分ニ於テモ其責遁レ難シト猶又金操ノ都合ニモ當惑シ傍軽卒容易ノ取扱ヒイタセシ段大ニ悔悟セリ因テ自分ハ其比ヨリ銃器ノ依頼ヲ受ケシヲ隠蔽スルノ念慮ヲ生シタルカ其後有造カ監倉中ヨリ中村ニ密書ヲ贈リシヿヲ聞テ隠蔽ノ念益深ク終ニ自分ノ簿冊中銃器ノ一条ニ付金銀出入ノ部分ヲ切断シ成丈銃器ノ事ニ関セサル様注意セリ

第三十五條　自分有造ヨリ銃器一条ノ依頼ヲ受ケシ時有造ノ談示ハ純粋ノ一ニテモナカリシナリ其節有造云西郷カ一トタヒ足ヲ挙

レハ海内沸乱其勢ヒ計ルヘカラス就テハ高
知ニ於テモ人心ヲ纏メ其節ハ自カラ其処分
ヲ為サヽルヘカラス然ルニ必用ナルハ銃器
ナルカ幸横濱ニ賣物アル由竹内綱ヨリ承知
セシニヨリ足下其指押ヘヲ周旋シ呉ヨト有
造ハ右様自分ニ語リタルノミニテ西南ニ應
スルノ或ハ呉ヲ挙ル等ノ談話ハナカリシナ
リ併自分容易ニ有造ノ依頼ヲ承諾セシハ實
ニ不都合ナリシナリ

第三十六条　自分有造ノ依頼ヲ受ケタルヿハ
前条ノ通リナルニ是迄有體ニ申上ケサリシ
ハ全ク有造ヲ庇蔭スル為メニテ自分ニ於テ
ハ決シテ有造等ト共ニ事ヲ為スノ意アリシ
ニハアラス自分ハ銃器ヲ周旋セシ後東金ニ
赴キタルカ東金ニ於テ中村ノ昏簡并新聞紙
等ヲ見テ高知ニ於テ護郷兵ヲ企テ又政府ニ
建白ヲ為シタル変ヲ承知シテ大ニ驚愕シ中
村ニ書簡ヲ贈リ右両事件共拙者ハ不同意千
萬ナリ就中建白ノ如キハ御國難ニ乗シテ政
府ニ迫ル筋ニテ實ニ不條理ノ至リナリト申
越シタル一款中村ヨリモ同意ノ旨回答アリシ
ナリ其回答書ハ昨年中取持シ居タルニヨリ
近頃朋友来リシ時右ノ談話ニ移リ中村ノ回
答書ヲ尋ネタレハ見ヘサリシナリ右ノ通リ
ナリシヿヘ中村モ全ク有造ト同意ニハアラ
サリシヿト自分ハ思量スルナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 332-3

第三十七条　自分ハ銃器ヲ周旋セシ事ヲ大ニ
後悔セシニヨリ十年八月有造カ上京セシ時
大ニ有造ヲ詰責シタル処有造云高知ノ實況
ハ世上ノ風評ノ様ニテモナカリシナリ最早
西南粗鎮定セシ上ハ何モ心配ニ及ハスト自
分云足下ハ其様ニ安閑トシテ居テモ宜キヤ
ト其後二三日ヲ経テ有造ハ拘引セラレタリ

第三十八条　自分カ周旋シタル銃器ハ八百挺
ニテ其名ハ覚ハサレトモ「スナイドル」ニテハナ
カリシナリ其後有造上京シテ右銃器ヲ取調
ヘタルニ当今流行セサル品物ニテ用立兼ル
ニヨリ解約セネハナラサルコトヲ自分ニ語リタル
コトアリシト存ルナリ夫ヨリ有造ハ更ニ上海
ニアリタル三千挺ノ銃器買入ノコトニ着手シ
自分カ周旋セシ銃器ハ解約セシ由ヲ自分ハ
其後中村貫一カヨリ承知セリ尤自分ハ上海
ノ銃器一條ニハ一向関係ナカリシナリ

第三十九条　明治十年中中村カ東京ニ滞在セ
シモ又有造カ屢上京セシモ白髪山代金御下
渡ノ事ニ付テナリ自分ハ東京ヨリ帰京後小
児大病ナリシユヘ中村ニモ度々ハ面會セサ
リシカ何分御下金ナク自分ノ金融大ニ
差支タルニヨリ實ハ自分差支ノコトヲ其筋ニ
申上ケ御下金ヲ願ヒシ処漸ク公債証書三万
円御下渡アリシナリ

第四十条　自分ハ近来不幸打續キ精神錯乱セ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 332-3

ルニヨリ或ハ申上落セシヿアルヤモ計リ難ケレ𪜈自分カ銃器一条ニ関係セシ次第ハ大略右之通ナリシナリ

右之通相違無御座候

高知縣士族

明治十一年五月十八日　従五位岡本健三郎拇印

第七号

明治十一年五月十八日申立

高知縣士族

岡本健三郎

第四十一条　五月八日ノ口供第三十六条ニ自分銃器ノ依頼ヲ林有造ヨリ受ケタルヿヲ是迄有体ニ申上ケサリシハ全ク有造ヲ庇蔭スル為メナリト申上ケタルカ右ハ自分心得違ノ申立ナリシユヘ全ク有造ヲ庇蔭スル為メノ數字ハ甚相濟マサルヿト御改ヲ願度ナリ

右之通相違無御座候

高知縣士族

明治十一年八月七日　従五位岡本健三郎拇印

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 332-3

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 332-3